

授業のポイント

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが大切です。

次の4つのポイントを意識して、「考え、議論する道徳」の授業を構想しました。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ○ 問題意識を持たせる | ○ 自分との関わりで考えさせる |
| ○ 多面的・多角的に考えさせる | ○ 自己の生き方について考えさせる |

小学校4年生 C-(11)規則の尊重「日曜日のバーベキュー」のポイント

<ねらい> 一般的なきまりの意義やよさについて理解し、きまりを守ろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

導入

道徳的価値の理解を基に・・・

①<問題意識を持たせる> ②<自分との関わりで考えさせる>

- ・ 学校のきまりを守ることができているか、自分の生活を振り返らせることで、自分との関わりで考えられるようにする。そこから、公共の物や公共の場所にはきまりがあることを確認し、本時の課題である「社会のきまり」について、問題意識を持たせる。

③<多面的・多角的に考えさせる>

- ・ 川原にごみを捨てることをいけないと知りながらも、そのままにしてしまった人間の弱さを、ウェビングマップを活用し、多面的・多角的に考えさせる。
(発問) ○ぼくはごみを捨てた後、立て札に気付き、「どうしよう」と思いながらも、そのまま車に戻ったのは、どうしてでしょう。

④<自分との関わりで考えさせる>

- ・ 補助発問「あなたは、このときのぼくの気持ちを理解できますか」「あなただったらどうしますか」を用意し、自分との関わりで考えさせる。
- ・ 「社会のきまりは何のためにあるのでしょうか」と導入と同じ問いを行うことで、社会のきまりの意義について自分との関わりで考えさせる。

⑤<自己の生き方について考えさせる>

- ・ 導入時の自分の考えと比較させる視点を与える。
- ・ 社会のきまりは何のためにあるのかについて書かせることで、自分の生活を振り返り、自己の生き方についての考えを深めさせる。

展開

終末